

# 加賀検定

## 第3回 加賀ふるさと検定試験問題

初級（全60問）

2015年 11月 29日

加賀ふるさと検定・おもてなし講座実行委員会

各問題に対して、それぞれ①～④までの選択肢の中に正解が1つあります。解答用紙に、正解と考える番号を1つだけ○で囲って下さい。(黒色のエンピツもしくはボールペンを使用のこと)

- 1 橋立大野山遺跡は、当市における（ ）時代の代表的な遺跡の一つで、ここからは県内最古の土器とされる尖底橢円押型文土器せんていだえんおしがたもんの一部が出土している。  
①縄文 ②弥生 ③古墳 ④白鳳
- 2 現皇室の直接の先祖とされる（ ）天皇は、越前の豪族で、その母、フリヒメの母方の家系は、当地、江沼郡の豪族だといわれている。  
①応神 ②継体 ③推古 ④桓武
- 3 奈良（ ）が所蔵する正倉院文書の中には、当地方の最も古い戸籍といえる「越前国江沼郡山背郷計帳」の一部が残されている。  
①薬師寺 ②法隆寺 ③興福寺 ④東大寺
- 4 山代温泉（ ）に安置にされている木造十一面観音像は、もと大聖寺慈光院の本尊とされ、平安時代末期の白山信仰の本地仏として貴重である。  
①薬王院 ②専光寺 ③市之瀬神社 ④服部神社
- 5 鎌倉時代、東国御家人の一人で、伊豆国を拠点としていた狩野氏は、江沼郡内の庄園を治める（ ）となって勢力を誇った。  
①肝煎きもいり ②郷長ごうちょう ③地頭じとう ④国主こくしゅ
- 6 約百年余り続いた加賀一向一揆勢の支配にピリオドを打ったのは、長篠の合戦で武田軍を破り、北陸を平定した（ ）であった。  
①徳川家康 ②織田信長 ③朝倉宗滴 ④前田利家
- 7 慶長5年、関ヶ原の戦いが起こったことで、当地においても、東軍についた金沢城主前田利長と西軍についた大聖寺城主（ ）との間で激しい戦いが起こった。  
①前田利治 ②柴田勝家 ③山口玄蕃 ④溝口秀勝
- 8 加賀藩3代藩主前田利常は、寛永16年の隠居に際し、2男利次に富山藩10万石を、3男利治に大聖寺藩（ ）を分割し、それぞれ支藩として独立させた。  
①2万石 ②5万石 ③7万石 ④10万石
- 9 大聖寺藩最後の藩主である前田利としかは、初代藩主前田利治から数えて、第（ ）代目となる。  
① 12 ② 14 ③ 16 ④ 18

- 10 大聖寺神明町の（ ）には、市指定の文化財である五百羅漢が残されており、元禄年間、松尾芭蕉が「奥の細道」の行脚の途中に泊まった寺としても知られる。  
 ①実性院 ②蓮光寺 ③全昌寺 ④正覚寺
- 11 大聖寺藩領内における、小塩辻村の鹿野小四郎を代表とする有力農民は、（ ）と称する役職に任じられ、農村を管理した。  
 ①奉行 ②村長 ③十村 ④区長
- 12 大聖寺の南側のはずれ、下屋敷から神明町にかけての一带は、禅宗・浄土宗・日蓮宗などの各派の寺院が並んでおり、（ ）寺院群と呼ばれている。  
 ①山ノ下 ②地方 ③下屋敷 ④山寺
- 13 大聖寺の豪商（ ）は、文政6年、九谷焼を再興しようと、現在の山中温泉九谷町の古九谷の窯跡のすぐ傍らで、新たに窯を築いた。  
 ①豊田伝右衛門 ②後藤才次郎 ③田村権左右衛門 ④飯田屋八郎右衛門
- 14 加賀市の橋立、塩屋、（ ）の3カ村は、江戸時代から明治時代にかけて活躍した北前船の船主や船頭を輩出し、「北前船のふるさと」として知られる。  
 ①篠原 ②小塩 ③片野 ④瀬越
- 15 元禄2年、俳人松尾芭蕉は「奥の細道」の行脚の途中、山中温泉の湯宿「泉屋」に（ ）した。  
 ①2泊 ②4泊 ③6泊 ④8泊
- 16 加賀市（ ）は、江戸時代には茶屋が立ち並び、17匹におよぶ馬が置かれるなど、北国街道の宿駅として賑わった。  
 ①三木町 ②吉崎町 ③橋町 ④熊坂町
- 17 大聖寺神明町の宗寿寺正門は、もと大聖寺藩の（ ）で使われていた門とされ、現在、加賀市の指定文化財となっている。  
 ①作事所 ②関所 ③藩邸屋敷 ④吟味所
- 18 民謡「山中節」は、湯治に訪れた北前船の船頭衆たちが、北海道の追分を（ ）と称する娘たちと唄いあった中で生まれたといわれる。  
 ①ゆかたべ ②あらいべ ③はおりべ ④ねまきべ

- 19 明治8年、富士写が岳の山麓で良質の黒鉛が発見され、この黒鉛を利用して、同10年に、大聖寺松島町付近で（ ）を製造する会社が創設された。  
①鉛筆 ②弾薬 ③マッチ ④電池
- 20 江戸時代より、大聖寺は絹織物の主産地で知られたが、特に、明治期以降、大聖寺の（ ）は、真っ白で肌触りがよく全国的に人気があった。  
①羽二重<sup>はふたえ</sup> ②紬<sup>つむぎ</sup> ③縮緬<sup>ちりめん</sup> ④友禅<sup>ゆうぜん</sup>
- 21 当地では、電力の必要性をいち早く感じていた（ ）たちが中心となって、明治44年に大聖寺川水力発電株式会社を設立した。  
①機業家 ②旅館主 ③北前船主 ④町村長
- 22 明治33年5月、大聖寺と（ ）との間に線路が敷かれ、江沼郡で最初の馬車鉄道が開通した。  
①動橋 ②山代温泉 ③河南 ④山中温泉
- 23 昭和33年1月、江沼郡の大聖寺町や山代町、片山津町など（ ）ヶ町村が合併し、現在の加賀市の前身にあたる「旧加賀市」が誕生した。  
① 7 ② 8 ③ 9 ④ 10
- 24 江戸時代より昭和初年頃まで、食事をする際は、家族それぞれが（ ）と呼ぶ、日頃は食器を入れておく小さな箱を使った。  
①箱膳 ②卓袱台<sup>ちゃぶ</sup> ③食事箱 ④食卓膳
- 25 動橋町の（ ）神社には毒蛇伝説があり、この伝承に基づいて行われている祭事が現在の「ぐず焼き祭り」である。  
①動橋 ②白山 ③振橋 ④八幡
- 26 「ぜいたく煮」あるいは「いなか煮」と呼ばれている当地の郷土料理とは（ ）を甘く煮込んだ料理のことである。  
①サツマイモ ②カモリ ③ゼンマイ ④タクワン
- 27 当地の方言である（ ）は、主に「いやな・気にいらぬ」の意味で使われた。  
①けなるい ②あてがい ③こすかん ④べんこな

- 28 加賀市は石川県の最西南端に位置し、周囲 98.5 km、面積は約 ( ) km<sup>2</sup>である。  
①206      ②306      ③406      ④506
- 29 当地で最も高い山とされる大日山の頂上は、加賀市と小松市の境界に位置するところで、その標高は ( ) mである。  
①1,280      ②1,368      ③1,482      ④1,684
- 30 加賀市の気温や降水量などは、( ) に設置された観測所にて計測されている数値である。  
①加賀市役所      ②加賀温泉駅      ③加佐ノ岬      ④山中温泉菅谷町
- 31 大日山や富士写ヶ岳の中腹には、( ) が多く見られ、ここでは、長年積もった落ち葉が雨水を吸収し下流に水を供給するので、「天然のダム」と言われている。  
①ブナ林      ②杉林      ③松林      ④ヤブツバキの森
- 32 大聖寺川は、全長 ( ) kmで、県内では手取川、梯川に次ぐ3番目に長い川となっている。  
①38      ②48      ③58      ④68
- 33 柴山潟の面積は、現在、約 1.7 km<sup>2</sup>であるが、これは昭和 29 年から始められた干拓工事によって埋められたもので、それまでは約 ( ) km<sup>2</sup>であった。  
① 2.4      ② 3.4      ③ 4.4      ④ 5.4
- 34 国指定天然記念物「鹿島の森」では、森の中に暮らし、木によじ登る ( ) が見られる。  
①ムラサキヘビ      ②アカテガニ      ③アオガエル      ④ミドリガメ
- 35 山中温泉荒谷町の石川県内水面水産センターには、国指定天然記念物 ( ) が飼育されている。  
①トキ      ②ライチョウ      ③ニホンカワウソ      ④オオサンショウウオ
- 36 二子塚町の国指定史跡「狐山古墳」は、加賀市内の平野部に残る希少な ( ) の遺跡である。  
①方墳      ②円墳      ③前方後円墳      ④前方後方墳
- 37 大聖寺鍛冶町出身の ( ) は、1枚の鉄板から、複雑な形をした鶏や兎、猿などの小動物を造り出す金工家として世界的に知られた。  
①西出大三      ②佐々木泉景      ③山田宗美      ④浅井一毫<sup>いちもう</sup>

- 38 毎年2月10日、大聖寺敷地の菅生石部神社では、竹割りの奇祭である御願神事ごんがんしんじが行われているが、この神事は現在、( )の無形民俗文化財に指定されている。  
 ①加賀市 ②石川県 ③国 ④ユネスコ
- 39 加賀市( )町では、毎年、八月のお盆に、笛や太鼓の囃子がない「シャムシャ踊り」が伝えられており、現在、市の無形文化財となっている。  
 ①塩屋 ②瀬越 ③橋立 ④三木
- 40 石川県指定文化財である( )は、尾小屋鉦山などを経営していた横山章が金沢市内で建てた建物であるが、大正10年に山中温泉に移築されたものである。  
 ①無垢庵むく ②無限庵むげん ③無常庵むじょう ④無心庵むしん
- 41 伝承によれば、九谷焼は、江戸時代初期、九谷鉦山の開発に従事していた後藤才次郎が、陶業技術を学ぶために、( )に出向き、その技術を習得したという。  
 ①筑前ちくぜん ②豊前ぶぜん ③肥前ひぜん ④肥後ひご
- 42 大聖寺藩士( )は、江戸時代後期に活躍した、わが国を代表する儒学者であり、その蔵書や著作143冊は、加賀市の指定文化財となっている。  
 ①田辺明庵たなべめいあん ②草鹿蓮溪くさかれんけい ③樫田東巖かしだとうがん ④大田錦城おおたきんじょう
- 43 大聖寺藩の松奉行、小塚藤十郎は、上木・塩屋・瀬越などの海岸沿いに数多くの黒松を植えた。また、大聖寺藩領内の地誌である( )を編纂へんさんした。  
 ①「加賀江沼志稿」 ②「大聖寺地誌略」 ③「大聖寺藩史」 ④「加賀之地理」
- 44 文政年間、加賀藩の御抱え絵師となった大聖寺出身の( )は、画家としては最高位となる「法眼ほうげん」の位を得た。  
 ①佐々木泉景 ②石田忘軒 ③山口梅園 ④谷文晁
- 45 大聖寺藩士( )は、幕末、金沢で黒川良安に学び、その後、大坂の緒方洪庵が主宰する「適塾てきじゆく」に入り、福沢諭吉や大村益次郎らと共に「塾頭」を務めた。  
 ①東方芝山 ②吉田屋伝右衛門 ③渡辺卯三郎 ④竹内玄同
- 46 大聖寺耳聞山町出身の桂田富士郎博士は、( )を発見した医学者として知られる。  
 ①赤痢菌 ②日本住血吸虫 ③線虫 ④梅毒スピロヘータ

- 47 江沼郡出身の人力車夫、北ヶ市市太郎きたがいちいたろうは明治 24 年、大津において（ ）の皇太子が暴漢に襲われた際、その命を救ったことで、一躍英雄となった。  
①イギリス ②フランス ③ロシア ④ドイツ
- 48 大正 4 年、書や篆刻、陶芸、料理などで異彩を放った総合芸術家、北大路魯山人は、山代温泉とうりゅうに逗留し、九谷焼を（ ）から習った。  
①須田菁華 ②上出喜山 ③大蔵寿楽 ④木崎万亀
- 49 世界で最初に人工雪の結晶をつくることに成功した当市片山津温泉出身の物理学者、中谷宇吉郎は、理化学研究所では（ ）の門下生となって学んだ。  
①湯川秀樹 ②寺田寅彦 ③長岡半太郎 ④高峰讓吉
- 50 大聖寺出身の作家、深田久弥は、昭和 5 年、『文芸春秋』に（ ）を発表したことをきっかけとして、大学を中退し作家活動に入った。  
①「日本百名山」 ②「オロッコの娘」 ③「孤高の人」 ④「檸檬れもん」
- 51 当市の基幹産業である機械製造業は、明治 36 年に、山中温泉の新家熊吉が自転車部品のリムを製造する（ ）が設立されたことがきっかけとなった。  
①大同工業 ②新家商会 ③江沼チェーン ④月星製作所
- 52 山中温泉では、平成 15 年、宿泊客などが、温泉情緒を感じながら街並みを散策することができるよう（ ）街道を整備した。  
①ゆげ ②菊の湯 ③芭蕉 ④湯けむり
- 53 昭和 53 年に制作された「かがし音頭」は、歌手の都はるみにより日本コロムビアからレコード化されたが、その歌い始めは「（ ）みたけりゃ 加賀市へおいで」で始まる。  
①湯けむり ②白山 ③案山子かかし ④焼き物
- 54 加賀市では、2013 年から毎年、一定のコースを限られた時間内で何周出来るかを競う（ ）と称する自転車耐久レースが、開かれている。  
①温泉ライダー ②サイクルライダー ③チェーンライダー ④かがやきライダー
- 55 本年 9 月から、（ ）を拠点として、2 人乗りの超小型電気自動車「温モビぬく」のレンタルサービスが開始されている。  
①山中温泉 ②山代温泉 ③片山津温泉 ④加賀温泉駅

専門テーマ「山中漆器」

- 56 「山中漆器」は、天正年間、越前から山伝いに山中温泉の（ ）に木地師が移住したことを起源とする伝承がある。
- ①大土<sup>おおづち</sup>      ②杉水<sup>すぎのみず</sup>      ③真砂<sup>まなご</sup>      ④九谷
- 57 山中漆器で使われている「漆」は、古くは日本国内で産出されたものを使っていたが、現在、そのほとんどは（ ）からの輸入品を使用している。
- ①韓国      ②台湾      ③中国      ④ロシア
- 58 山中漆器は、昭和に入ってから合成樹脂を素材とした近代漆器を導入し、伝統漆器と併せた生産額は、現在、日本で（ ）となっている。
- ①第1位      ②第2位      ③第3位      ④第4位
- 59 山中漆器の技法では、蒔絵<sup>まきえ</sup>の名人、大下雪香<sup>おおしたせっこう</sup>と、木地引き<sup>きじ</sup>の名人で千筋挽き<sup>せんすじび</sup>や拭き漆技法などを創始した（ ）の2人が広く知られている。
- ①後藤才次郎      ②筑城良太郎<sup>ついき</sup>      ③会津屋由蔵<sup>あいづ やよしぞう</sup>      ④小野彦次郎
- 60 山中温泉上原町の川北良造氏は、山中漆器を製作する際に必要とする轆轤<sup>ろくろ</sup>をつかった挽物技法<sup>ひきもの</sup>を高度な芸術の域までに高めたとして、平成6年、いわゆる（ ）に認定された。
- ①名誉県民      ②国民栄誉賞      ③人間国宝      ④日本遺産